

---

# カエルのケロ助Ver . 4 . 7 3

山羊ノ宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カエルのケロ助Ver.4.73

### 【Nコード】

N40890

### 【作者名】

山羊ノ宮

### 【あらすじ】

カエルのケロ助は黄金の八工を探し、旅を続けていた。

その道すがら、いきなりケロ助は足を止めた。

「奴が来る」

そして、ケロ助は真剣な眼差しで遠くを見ていた。

カエルのケロ助は黄金の八工を探し、旅を続けていた。その道すがら、いきなりケロ助は足を止めた。

「奴が来る」

そして、ケロ助は真剣な眼差しで遠くを見ていた。

「冬將軍が」

冬將軍？

シベリア寒気団の事であろうか。

それとも脳みそにツボカビでも湧いているのだろうか。

まあ、ともかく変温動物であるケロ助にとって寒さは天敵である。

動きが緩慢になったケロ助は一歩踏み出すと、足元にあった小石につまずき、不様に地面にキスをした。

お似合いの姿である。

ケロ助は這いつくばりながら、ふと考えた。

偶然とは、必然とは何か？

起こるべくして起こった、それともたまたまなのか。

既に起こってしまった事象について意味を求めても意味のないようにも思えるが、それでも何かを肯定したいのだろう。

例えば人生を真っ白な本だとすると、その最後のページに『黄金の八工を見つけた』と書かれていれば、その過程はどれであれ行きつく先は決まっている。

例え、魔王と戦おうと時間旅行して、謎の鉱石生物と戦おうと、それは全て『黄金の八工を見つける』ための必然の事象でしかない。すなわちある一点が決定した時点で、それ以前の事象は全て必然となるのだ。

ここに未来に一切決定事項はないと仮定すると、未来から現在までを偶然、現在から過去までを必然とはできまいだろうか？

現在は常に更新される決定点であるのだ。  
偶然から必然に変わっていく変化の過程こそ、時間の流れである。  
もしかしたら先程俺が石につまずいたのも必然かもしれないのだ。

「そろそろ冬眠しなくては」

そして、ケロ助は偶然を必然に変えるために未来の予定を立てた。  
しかし、その予定はまだ不確定である。

まだ這いつくばっていたケロ助の上を影が覆う。

そして、何かがケロ助を押しつぶした。

（こんなところで俺は果てるのか。まだ黄金の八工を食べていない  
というのに）

ケロ助は目の前が真っ暗になり、次の瞬間ぱあっと光が開けた。

「芳崎先輩！？大丈夫ですか？」

不審がりながらもケロ助が目を開けると、目の前には人間の男が心配そうにケロ助を見ていた。

「生きている・・・」

何が起こったのかとケロ助は辺りの状況を分析した。  
景色が違う。

よく分からないが、どうやらケロ助は人間の女になっただけらしい。

そして、ケロ助の尻の下には一匹の力エルがのびていた。

まあ、何が起ころうとケロ助の旅は続くのだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4089o/>

---

カエルのケ口助Ver.4.73

2010年10月20日02時02分発行